

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105578
法人名	医療法人かざはクリニック
事業所名	グループホームかざはや
所在地	松山市中西内469番地
自己評価作成日	平成25年12月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

Dr、施設長を始め、スタッフは全員、「利用者様が楽しく暮らしやすい様子を目標に、その人らしく、最後までホームで過ごして頂ける様、日々努力している。母体が医療機関と言う事もあり、病気が急変時にも速やかに対応でき、安心して過ごして頂ける。また、9名定員と言う規模を活かして、柔軟な対応、小回りのきくホームである。また、地域行事、ホーム行事を通じて、地域の方々との交流も円滑で、地域の一員として迎えてもらっている。しかし、現状に満足せず、日々進化を目指し頑張っています。利用者様の高齢化及び重度化により、中々支援ができ難い事が増え、外出ボランティアさんをお願いする等、今後は、地域の社会資源を、もっともっと活用して、出来る事を増やして行きたいと考えています。

月1回の職員会議は、施設長も参加されており、職員は気付いたことや提案を出して、業務改善等に取組まれている。職員個々に体調や事情等もあるが、お互いに協力し合いサポートし合ってチームワークよく取組まれている。職員によっては、利用者においしい食事を作れるようテレビや雑誌から利用者が喜びそうなメニューをピックアップしてノートにまとめている方もある。絵の得意な職員や踊りの上手な職員等、それぞれ得意なことを発揮しながら取組まれている。
シャワー浴のみの支援となっていた方を入浴に誘ったところ、利用者の方が、「入れ入れと言っても湯船につかれんのに」と言われたことを施設長が聞き、浴室にリフトを整備することにつながり、利用者は湯船で温まることができるようになり、さらに安眠にもつながったようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームかざはや

(ユニット名) かざはや

記入者(管理者)

氏名 西元 静香

評価完了日 25 年 12 月 13 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共 有して実践につなげている	(自己評価) 明るく挨拶、地域の一員。共に支え合い、生き生きとした ホーム。(第11回の運営推進会議の場で決定) 散歩や、行事等スタッフも、利用者の方も笑顔で挨拶が出 来ている。	
			(外部評価) 「安心と信頼 自分らしく穏やかな暮らし 皆と一緒に楽しい 毎日」という事業所の理念のもと、運営推進会議時に地域 理念を作り、地域の方達と共有して取り組みをすすめておら れる。理念は、事業所玄関や廊下に掲示されていた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられ るよう、事業所自体が地域の一員として日常的 に交流している	(自己評価) 地域の行事(盆踊り・夏祭り)に、利用者様・スタッフ共に継続して 参加している。高齢者クラブコーラスにも、引き続き参加できてい る。また、ホームの行事へお誘いに高齢者クラブの方々や、近隣 の住民の方々の参加を頂き、楽しいひと時を持っている。「まもるく んの家」活動では、朝・夕の登下校時の見守りに、通学路に立っ ている。年末には、注連縄とお餅を毎年届けて下さいます。(地域の 秋祭りには、獅子や神輿が来て下さったり、接待に協力する等して いる)	
			(外部評価) 地域の方達とは、運営推進会議や普段のおつき合いを重ねること で、関係が深まっている。新田神社奉納演芸大会には、高齢者ク ラブの方達に交じって利用者や職員も練習を重ねたコーラスを披 露された。事業所は「まもる君の家」に登録しており、早出職員が 小学生の登校を見守っておられる。年1回は保育園から園児が来 てくれて、利用者とおふれ合う機会がある。事業所周辺には畑が多 く、散歩中に野菜をいただくようなこともよくある。又、事業所の菜 園の指導をしてくださる方もいる。観月祭の機会には、農家の方も 一緒に食事しながら楽しめるよう、招待されている。愛媛マラソンの 折には、沿道に出て利用者も応援をされた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、各研修報告や、勉強会「うんちの色」「笑 いは奇跡の薬」「終末期ケアのあり方」「睡眠について」など を実施した。今後も、継続して行っていく予定。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこの意見をサービス向上 に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者様には、交替で参加して頂き、思いを拝聴する事が 出来ているが、本年度は、家族様の様々な事情により、ご参 加頂けてない。ホームでの行事等は、毎回実施と予定を報 告している。そこで頂いたご意見などありがたく参考にさせ て頂き、サービス向上につなげている。</p> <p>(外部評価) 会議では、終末期ケアや睡眠について等、職員が研修で学 んだこと等ついて発表し、皆で勉強をされている。利用者は 交代で会議に参加されており、職員から事業所での暮らし について「どうですか？」と質問すると、「食事もおいしい、 やさしくしてもらっている」等と感想を話されるようだ。又、重 度の利用者が増えたこともあって事業所では「お元気な利 用者とかかわる時間が少なくなった」ことを感じておられ、お 話相手のボランティアを紹介してもらえよう、会議時メン バーに呼びかけられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 不安な事や、解らない事があれば、お電話をさせて頂き、ア ドバイスを頂いている。運営推進会議への参加も頂き、アド バイスや各種提案をいただいている。</p> <p>(外部評価) 北条地区の地域密着型サービス事業所が集まる交流会に は、地域包括支援センターの担当者も同席されている。各 事業所で課題になっている「対応困難事例」「社会人のマ ナー」等をテーマに挙げて、意見交換等をされている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解 しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ターミナルケアの方で、転落防止の為、ベッド柵を2点使用 している。(Faの了解あり)</p> <p>(外部評価) 転倒等の心配がある場合はセンサーマットを使用するが、 状態が落ち着いたら外すようにされている。玄関は開けてお られ、午前中、利用者は、ボランティアの方と散歩に出かけ られた。又、午後からは食材の買い物に職員と一緒に出か けられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>現在は、見られていない。精神的や言葉での虐待がある事もミーティングで話し合う機会を持っている。</p>	
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>意識統一のマニュアルのファイルに資料を綴じ、いつでも見られる様にしている。現在、利用者はいない。</p>	
9		<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>契約の際に、充分説明をして、理解・納得いただいている。</p>	
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>苦情申し立ての窓口や、ご意見箱を設置している事を、ご案内し、面会や、来所の機会にご意見、ご要望を直接お伺いしたり、毎月のお便りにも、いつでも、お気軽にお申し出下さるよう、ご案内している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員の入替わりが少なく、職員がご家族とのコミュニケーションを重ねることで関係が深まっている。ご家族は、職員の明るいところが特に気に入っておられるようだ。又、継続して通信を発行しており、事業所の活動の写真満載で、ご家族に送付して報告されている。又、来訪時には運営推進会議録を渡すようにされている。年度末には、来年度の年間行事予定表を送付し、ご家族は観月祭や利用者個々のお誕生会には参加されるが、運営推進会議やその他の行事への参加はあまりないようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者は、常に利用者様、スタッフの立場に立って考えて下さり、自由に意見が述べられる環境である。また、管理者も平等に意見を聞く等、努力は惜しまない。	
			(外部評価) 月1回の職員会議は、施設長も参加されており、職員は気付いたことや提案を出して、業務改善等に取り組まれている。職員個々に体調や事情等もあるが、お互いに協力し合いサポートし合ってチームワークよく取り組まれている。職員によっては、利用者においしい食事を作れるようテレビや雑誌から利用者が喜びそうなメニューをピックアップしてノートにまとめている方もある。絵の得意な職員や踊りの上手な職員等、それぞれ得意なことを発揮しながら取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、ほぼ毎日ホームに来て、管理者、スタッフの勤務状況を把握し、個々の体調や、精神面のフォローをして下さっている。また、業務に応じた時間外手当の支給や、年1回の昇給、他にスタッフの誕生会や慰労会を実施して下さり、遣り甲斐がある。	
			(外部評価) 内外への研修への参加を、快く行かせて下さり、参加費用や、交通費などの支給もある。また、各種資格取得への協力・理解もあり、資格試験費用も事業者が負担してくれる。等、資質向上に力を入れて下さる。また、Drも協力を惜しまれず、スタッフの要望にも快く応じて下さり、ミーティング等での、研修も行って下さる。(スタッフ個々の疑問や興味のある事を、奇数月のミーティングで勉強会として、取り組んでいる)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内外への研修への参加を、快く行かせて下さり、参加費用や、交通費などの支給もある。また、各種資格取得への協力・理解もあり、資格試験費用も事業者が負担してくれる。等、資質向上に力を入れて下さる。また、Drも協力を惜しまれず、スタッフの要望にも快く応じて下さり、ミーティング等での、研修も行って下さる。(スタッフ個々の疑問や興味のある事を、奇数月のミーティングで勉強会として、取り組んでいる)	
			(外部評価) 地元でのサービス調整会議への参加や、地域密着型連絡協議会等への参加で、他のグループホームやその他の施設との交流が持て、意見交換ができる様になっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 必ず、ご利用者ご本人と面接し、状態を拝見すると共に、お話をうかがうようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の思いや、置かれている状況、困り事を安心して相談して頂ける様に、声掛けやコミュニケーションに努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>状況により、必要に応じたサービスの提供や、ご紹介を行っている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様の得意な分野を把握し、ご本人が生き生きと活躍できる場を提供している。また、一緒に泣いたり笑ったりと、思いを共感する等、関係作りに努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の状況や、ご本人様との関係性を把握し、最良と思われる方法、関係作りの援助をしている。(家族様との間に入り、帰宅願望や外出等の希望を、叶えられるよう働き掛けている。)</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居前に習慣にしていた事や、楽しみ等を継続して頂ける様、援助をしている。(友人との外出、食事会、自宅の草引き、喫茶店、温泉など、その都度、ご友人やご家族、スタッフ等で対応している)</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ご家族へ手紙を出す時職員が代筆したり、電話を取り次いだり、年賀状や暑中お見舞いを出せるよう支援されている。高齢や重度化した利用者が増えたことで、これまで支援できていたことを継続することが難しい場合も出てきているようだ。1階の併設デイサービスに地元の方が通って来られる時には、利用者も遊びにいけるよう支援されている。デイサービスに通う知り合いに「弱っている姿を見られたくない」と言う利用者もあるが、事業所のサービスを利用することで状態が改善し、楽しみに交流し始めた方もいる。</p>	<p>管理者は、今後、利用者の楽しみとなるような取り組みもすすめたいと考えておられる。日々の会話の中で、利用者は懐かしい場所や思い出等をよく話されるようだ。利用者の体調等をみながら、出かけていくきっかけにされてはどうか。利用者が大事にしていることを大切にできるような支援を、今後も続けていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間の相性等も配慮し、席の位置を工夫したり、適宜スタッフが介入したりと、トラブル回避に努めると共に、一緒にレクリエーションをしたり、いりこを拵えたり、干し柿を作ったりと、1つの事を、一緒に出来るような工夫も行っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後の落ち着き先や、その後の近況伺いをお電話させて頂いたり、他施設へご本人の面会に伺ったり、買い物等で、ご家族様にお見かけした時には、お声を掛けさせて頂いて、先方からも声を掛けて頂きやすい様な、関係作りに努めている。また、利用者様が亡くなって、退所した後も変わりなく季節のお野菜を届けて下さる等、交流が続いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様ご本人がどうしたいか？どう在りたいか？を日々のかかわりの中で傾聴し、把握する事により、ご本人の思いを最優先で、どうすれば可能か？をスタッフ間で考え、可能な限り対応している。(場合によっては、家族様にもお願いしている。) (外部評価) 調査訪問時、午後から買い物に出かける職員に利用者はお金を渡して、「お煎餅を買って来てほしい」と伝えておられた。職員は、お金を預かり、「塩味の煎餅よね」と遣いを頼まれていた。時には、商品カタログ等を拡げて「ほしいものを付けてね」と希望を聞くこともある。職員の衣服をみて、「私もそんなのが欲しい」と言われる方もあり、職員が同じようなものを買ってくる等して支援されている。夏は起床も早く、利用者の生活に合わせて職員のシフトも変更して支援されている。	宇高)職員は、利用者から頼まれたことは、後回しにせず、すぐに対応するようにし、約束は必ず守るようにされている。調査当日も、買い出しに出かける職員に、利用者自身の買い物を頼まれている姿が見られた。毎日、晩酌されている方もいらっしゃる。 事業所では、今後アセスメント様式を変更して、身体状況や思いや意向の情報が一目で分かるような様式を使用し、より現状に即した介護計画につなげていきたいと考えておられる。利用者の意欲的な言葉を集め、楽しみにつながるような支援のきっかけにされてはどうだろうか。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人にお話しを伺うと共に、ご家族様にもお話を伺い、どのような生活をされていたか、趣味や嗜好品、性格などの把握に努めている。(嗜好品は、特に制限せず、アルコール・タバコも可能)(週1回来所するパン屋さんからパンを購入する方が居られる)	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 常に、個々の状態を把握し、心身の状況に応じた臨機応変の対応を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご本人の思い、ご家族様の思いを事前に伺い、ご本人が自分らしく暮らせる事を、一番に考え必要な関係者と、話し合い作成している。(毎月のミーティングでカンファレンスを実施出来る様になった)</p> <p>(外部評価) 介護計画は、「心理面・排せつ面・食事面」等の項目に分け、個々に課題を見出し、優先順位を付けて作成されている。計画内容に記号を振り、日々の記録内でモニタリングを行い、状態変化のある利用者は毎月評価を行って見直しされている。利用者の状態により見直しの頻度にも差を付け、丁寧に見直すことでより現状に即した支援ができるようになっている。ご家族には計画をみてもらい、意見や要望をお聞きしている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々、個々の記録を残している。また、ケアプランには、その日のケアポイントにはPを項目に付けて記入するよう指導している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) グループホームと同じ建物に、居宅支援事業所と通所介護があり、適宜交流を行っている。(居宅ケアマネやデイ管理者にも適宜意見を求めている)</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域行事や、ホーム行事での交流により、地域住民と利用者様の馴染みの関係作りに努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 経営母体が内科クリニックであるが、ご本人ご家族様の希望を尊重している。また、適切な医療が受けられるよう、適宜クリニックDrが、他の医療機関を紹介して下さり、紹介状なども書いてくれている。(歯科などは、随時訪問を依頼できている)</p>	
			<p>(外部評価) 母体病院がかかりつけ医となっており、週2回往診がある。調査訪問時、「先生を信頼しているからこのホームにお世話になっているのよ」と話してくださる利用者もおられた。医師は、利用者の希望を第一に考えてくださっており、食べたいものについても、ご本人の気持ちを十分に理解して叶えられるようアドバイスをくださっている。医師とは24時間いつでも連絡がつくようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 現在、スタッフに看護職員はいないが、経営母体のクリニックに、随時連絡し指示を受けている。(週2回はNS往診がある)必要に応じてNSへ上申し、アドバイスや協力を得られている。(階下のデイサービスには、常時NSがあり適宜協力を得がえられる。)</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 脳梗塞で入院の方では、詰め所NSと密に連絡を取り、1日1回以上食事介助を兼ね、面会に伺い10日間の入院で退院できた。大腿部頸部骨折での入院では、家族さんと病院との連絡の中継や情報提供等し、洗濯物介助の為、適宜面会に伺った。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所契約時に、看取りの希望も確認している。また、適切なケアが出来る様、常にDrと連絡を取り、状態の変化に応じて、再度家族様の意向を伺い、最適な方針を決めている。スタッフ間では、送りノートやミーティングを通し、周知徹底を行っている。(必要に応じて、NSの待機、協力の話し合いが出来ている)</p>	
			<p>(外部評価) 重度でベッド上で過ごす時間が長い利用者の方には、他の利用者が様子を見に行かれ、言葉をかけたり、手を握ったりするようなこともある。事業所では、入居時にご家族等に最後まで看ることが出来ることを話し、期間を置いて再度希望等を聞いておられる。事業所で看とりを支援する場合は、ご家族の役割として頻りに足を運んでもらえるようお願いされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ホーム内研修や、外部研修に参加し応急処置の手順などの勉強を継続している。また、避難訓練時に消防隊員に教えてもらうなどしている。(Drへも随時指導、支持を頂いている)	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練には地域住民も参加して下さり、実際に非難の練習や方法を共に見付けている。また、運営推進会議に回り、地域の避難場所の把握や、緊急連絡網へ組み入れて貰う等している。また、地域防災会役員の名簿や、地域の地図等の配布も受けている。(防災会役員に、事業所理事長も加わっている)(避難訓練時に着用する、防災頭巾を多機能に使えるよう工夫し独自に作成した) (外部評価) 非常時に備え、ベッド柵には個々に薄めの座布団とタオル等で作った防災ずきんを付けており、訓練時等に使用されている。地域の方達は事業所の中の様子をよく知ってくれており、いざという時には中に入って利用者の救出に協力してもらえるようになっている。現在、事業所では水を備蓄されている。避難訓練時には、消防署の方が毛布を使った避難方法を教えてくださったり、職員の自宅から事業所まで駆けつけるまでの所要時間を計る等して把握された。運営推進会議時、震度8まで対応可能な事業所であることや、災害時には地域に場所を提供できることを伝えておられる。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人を尊重した声掛けが実施できている。(特に排泄面では注意を払っている)記録物は、他の利用者様から見えないように工夫し、申し送りも利用者様から離れた場所で行い、且つ個人の氏名は読み上げないようにしている。 (外部評価) 職員は、利用者との約束したことは必ず守ることに努め、利用者との信頼関係を作っておられる。又、共同生活する上で、他利用者にダメージを与えるような場合は、「いけないことはいけない」とご本人が納得できるまで管理者は話し合われるようだ。そのような支援から、利用者との関係が深まっている。管理者がなかなか眠りにつけない方とビール(ノンアルコール)を一緒に飲んで過ごされると、その後利用者はご自分から床につき安眠されるようだ。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から、自己決定を促している。例えば朝食は、主食を選べる(パン、米飯、粥)10時の水分は多種用意し、その日の希望を事前に伺っている。また、行事への参加も強制はしない。入浴時の衣類もなるべく本人さんに準備して貰い、入浴も個人の希望を尊重している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間に決まりは無く、朝は自由な時間に起きて来られる。(朝食は6時から9時と幅を持たせている)また、入浴などもその方の状態やペースに応じ、回数がまばらである。(毎日、1日置き、3日に1回など)	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時の衣服が、いつも同じ物にならない様に、タンス内の仕舞い方の工夫や、自己の選択の優先、自力で行えない方の適宜な更衣を配慮している。散髪は、家族様、ご本人様の希望により、行きつけの美容室だったり、スタッフが介助したりしている。(毎朝は、必ず整髪しスタイリング剤も用意している)	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下拵えを一緒にしたり、季節に応じた食材を使用したり、1日の内に肉、魚類が重複しない様にしたり、好き嫌いを把握して、配膳時に配慮したり、食べたい物を伺って献立に反映させたりしている。また、テーブル拭きや下膳もして頂いている。時には、洗い物もして頂ける。(汁物を、利用者様に作って頂く事もある。)	
			(外部評価) 朝食の時間等は、利用者個々の生活に合わせた支援を心がけておられる。又、パン、おかゆ等を選ぶことができ、利用者はパンを好まれるようだ。お寿司や煮物等、職員がそれぞれに得意な料理があり、利用者はその職員のその味を好まれるようだ。メニューを決めて週3回買い出しに行かれる。又、食材の配達等も利用されている。利用者は野菜の下ごしらえをしたり、調査訪問時には皆でつくしの袴とりをされていた。煮ものはやわらかく煮て、状態によっては小さく刻んだりミキサーにかけ食べやすいように支援されている。利用者は個々にマイペースで食べておられ、職員も一緒に同じものを食べ、ゆっくりした食事時間となっていた。デザートに農家の方からもらった大きな苺が出され、利用者はとても喜んでおられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎回、食事量をチェックし記録している。また、必要に応じてエンシュア等の高カロリー補助食や、食形態を工夫したりお粥にチーズや卵を入れる等の工夫をしている。また、水分は1,500cc程度確保を目安に、提供したり促したりしている。(夏場は、1,500cc～2,000cc)必要に応じてチェック表も付けている。(個々の状態に応じて、摂取量は臨機応変にしている)	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。利用者の方々も習慣化している。(週2回の義歯消毒を実施している)状態に応じて、ブラッシングのみや、口腔ケア用品で対応している)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を付け、個々のペースにあった声掛けや、誘導を行って、なるべくトイレでの排泄ができる様に支援している。(現在は、夜間パット交換2名、トイレ設置3名)常時オムツ使用1名である。	
			(外部評価) トイレ使用時には「ご自分でできる」ようなサポートに努めて、職員ができるだけ付いて入らないようにしておられる。ご自分で排泄すると下着の着脱時にパッドがよじれるような場合には、パッドを付けずに過ごせるような支援を考え工夫されている。又、排泄後に手洗いを忘れる方には「手を洗いましょう」と貼り紙をして意識してもらえようサポートされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜などの繊維質を、献立に取り入れたり、水分の補給に留意したり、適度な運動をして頂いたり、2,3日に1回はヨーグルトをお出しする等、予防に努めている。また、個々の排便リズムを把握し、便秘が長引かないように配慮している。(便秘気味の利用者さんには、毎日、隔日にヨーグルトを摂取して頂く等、個々に合わせて対応できている。)	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日曜日以外は入浴があり、希望に応じて、毎日、1日置き、3日に1回など個々に応じた回数となっている。(また、体調等で、続けて入浴できない時は、清拭を行っている。) 行事等で、入浴が提供できなかった場合は、日曜日に代替入浴も行っており、週6日の、入浴日を確保できている。	
			(外部評価) 午前中は散歩等、活動的に過ごされ、午後から入浴できるよう支援されている。調査訪問時には、職員が居室で着替えや用具の準備して、利用者にお見せするとご本人はお風呂だと分かり、トイレに行ってから脱衣所に向かわれる様子が見られた。シャワー浴のみの支援となっていた方を入浴に誘ったところ、利用者の方が、「入れ入れと言っても湯船につかれんのに」と言われたことを施設長が聞き、浴室にリフトを整備することにつながり、利用者は湯船で温まることができるようになり、さらに安眠にもつながったようだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状態に応じて、午睡や休息の時間を作ったり、日中の活動を心掛け、安眠できる様に配慮している。(冬場では、入浴できない方に希望に応じて足浴を行ったり、夜間、湯たんぽを入れる等している)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬状に目を通し、薬の内容を把握するようにしている。服薬内容の変更時には、日誌や送りノート等で、速やかに全スタッフに伝達し、服薬後の状態などの観察や、副作用が強く出たと思える時には、Drへの上申し指示なり、薬変更なりをして頂いている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の得意な分野を把握し、台所仕事や繕い物、洗濯物畳み等を提供し、生活に張りが持てるようにしている。小さな洗濯物干しは、立って出来ない方には、椅子を使用して安全に干して頂く等工夫し、可能な限りの役割を提供できるよう努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い日には、近くの神社へお参りに出掛けたり、食材の買出しにスーパーへ一緒したりしているが、30分程度の散歩支援では、スタッフが充分に対応できていない為、外出ボランティアをお願いし、週2日程度だが、1対1での散歩援助を行なっている。今後は、地域にある学校の学生さんなどにも働き掛け、ボランティアの数を増やし、もっと色々な行事を工夫していきたいと、模索中である。 (外部評価) 季節ごとのお花を見にドライブされたり、公園でお弁当を食べたり、動物園や菊花展等に出かけておられる。利用者のレベルに違いもあり、現在は少人数で出かけることを支援されている。施設長や退職された職員等がボランティアで来られ、散歩等を支援してくれている。夕食後に、イルミネーションを見に出かけることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、ホームでお預かりし、管理している。収支は必ず小遣い帳に記入し、レシートの貼付、2ヶ月毎(奇数月)に締め、ご家族様に確認して頂き、サインか印を頂いている。(欲しい物は自由に購入でき、小額を自分で管理されている方もいる)	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば、いつでも電話できる。ご本人がダイヤル出来ない時は、援助している。また、はがきや、手紙など自由に遣り取りできる。(海外に在住の娘さんからの夜間の電話等も、随時取り次いでいる。)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎月、玄関の壁やカレンダーを、季節に応じて交換したりし、季節のお花を飾ったりしている。時季に応じ、扇風機や加湿器、コタツなども出している。光などはカーテンや蛍光灯などで調節している。トイレのコール音が大きいのが、利用者の方は気にならないとの事。(トイレトーパーをご自分で交換出来る様、ペーパーホルダーを購入し、設置した)(テレビを2台にし、設置場所を工夫し、他番組でも同時に見られる様にした)(フロアの椅子が大きすぎて、座位が保持し難い方の椅子に座面を小さくする工夫をしたり、肘掛に小さいクッションを蒔き付ける等した。))</p> <p>(外部評価)</p> <p>フリージアの花が各所に飾られ、よく香っていた。又、窓辺には数年前に亡くなられた利用者が残された胡蝶蘭の鉢植えを大事にしており、毎年赤い色の花を付け、利用者のことを思い出させてくれる。中庭のさくらの木が大きくなり、2階からも少しみられる高さになっていた。畳の間には七段飾りの雛人形を飾られていた。「高縄山に登っていた」という方もあり、廊下の壁面には紙で作った高縄山の絵が飾られていた。ソファに座ると、手に取りやすいところにパズルや雑誌等が置いておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>マッサージチェアを利用したり、ソファで寛がれたり、コタツに温まったりできる。また、エレベーターホールにも椅子を置き、自由に座れる。(フロアのレイアウトを変え、中央付近に本棚やテレビ、植木を配置し空間を少し小さくした)</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ベッドやタンスはホームでも用意しているが、使い慣れた物で希望があれば、持ち込みは可能である。また、ベッド、タンスの配置は、個々の希望に応じて変更している。寝具は、個人で馴染みの物を用意して頂いている。他に、椅子やミニテーブル、テレビ、扇風機等自由に持って来て頂いている。(居室の豆電球が明るく、気になって眠れないと訴える利用者が居られ、テーブルランプを購入し、ベッド下に置き間接照明にした)(夜間トイレ使用者のマットに滑り止めの付いた敷物を敷き、冷たくないよう工夫した)</p> <p>(外部評価)</p> <p>仏壇を持ち込んでいる方があり、毎朝、職員がお茶を替えて、利用者と一緒に手を合わせておられる。又、買い物に行った時にはお菓子や果物を買って供える等されている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>個々の能力に応じ、出来るだけ自分でして頂き、見守りのみを行い、手を出し過ぎないようにしている。また、建物はバリアフリーになっており、行動を制限しない様にしている。特に、自発的にされた事は静止せず、適宜付き添ったり、見守ったりしている。</p>	